

茨城県



アジアとの交流拡大を目指して —アジア青少年音楽交流事業「TEENS ROCK ASIA」の開催—

茨城県生活環境部国際課

1 はじめに

茨城県では、昨年3月に首都圏3番目の国際空港である茨城空港が開港し、中国上海市、韓国仁川市と航路を結ぶようになりました。このことをきっかけに、成長著しいアジア地域との交流を進めるため、官民一体となって様々な事業に取り組んでいます。今年7月に実施された日中韓3カ国のアマチュアバンドによる青年交流事業「TEENS ROCK ASIA（以下、TEENS ROCK）」もその一つであり、本県と中国との友好交流を長年にわたって推進してきた民間団体である茨城県日中友好協会が中心となり、県がそれを支援する形で準備が進められました。

もともと「TEENS ROCK」は、音楽のまちづくりを進めているひたちなか市で開催されている高校生のアマチュアバンドの全国大会であり、昨年、ロックという世界の若者共通の文化をとおして青少年世代の交流を深めたいという思いから、上海万博の事務局に働きかけ、万博会場において日本と中国の青年による国際交流事業として、新たな一歩を踏み出しました。万博事務局からも高い評価をいただき、第2回目となる今回は、韓国を加えた3カ国に拡大して開催されることとなりました。

2 開催へ向けての準備

TEENS ROCKの開催に向けての準備が開始さ

れたのは、昨年9月にさかのぼります。茨城県日中友好協会の青年委員会のメンバーが中国と韓国に直接足を運び、開催趣旨を伝えたところ、両国から賛同の意が示され、それぞれの国からアマチュアバンドと高校生ボランティアスタッフを連れて参加することを約束してくれました。

ここで高校生ボランティアスタッフの説明をしたいと思います。TEENS ROCKの特色の一つとして、高校生がボランティアスタッフとして参加し、司会進行からポスターやチラシのデザインなど、企画・準備段階からアイデアを出し合って作り上げるイベントであることがあげられます。いくつかの作業グループにわかれて、各グループに大人のサポートが入り、指導を受けながら、「自分たちのイベント」として取り組んでいきます。

今回、日本からは約50名もの高校生（一部大学生含む）が参加し、イベントの数ヶ月前から月に2回の事前研修を重ね、準備を進めていきました。外国の人と交流するのは初めてという参加者も多くいましたが、事前研修のなかで、イベントを盛り上げようと中国や韓国のことを調べ、意欲的に参加していました。

3 震災の影響

このようにイベントの実施に向け、着々と準備を進めてきたなかで、3月11日に東日本大震災が発生し、イベント計画についても様々な点で変更を余儀なくされました。幸いにもイベント会場で

ある国営ひたち海浜公園の被害はそれほど大きなものではありませんでしたが、海外において福島第一原子力発電所の事故の影響を心配する声は予想以上に大きく、中国が3バンドと高校生約30名の参加を決定してくれたのは、6月中旬のことでした。残念ながら、韓国においては、子供たちの参加を心配する家族が多く、本国からの参加はかないませんでした。代わりに駐日韓国大使館の協力により、日本在住の韓国人グループが参加してくれることとなり、どうにか日中韓の参加ラインナップがそろったときには、ほっと胸をなでおろしました。

4 日中韓の競演 -「TEENS ROCK」の開催-

当日は晴天に恵まれ、無事にステージが開幕しました。日本5バンド、中国3バンド、韓国1バンドの計9バンドが暑さに負けず、若さあふれるステージを披露してくれました。

司会進行も、日本と中国の高校生、そして在日韓国人のボランティアが、これまでの準備の成果を発揮するため、3カ国語でのバンド紹介などを織り交ぜながら、イベントを盛り上げようと一生懸命務めていました。

各国の参加者が、リズムをとりながら、それぞれの国のバンド演奏を応援している様子は、このイベントが未来に向けてアジアの交流推進の確実な一歩となっていると感じさせてくれました。



TEENS ROCK 会場にて

また、イベント前後の夜にはカレーパーティやバーベキューパーティが開催され、言葉はわからないながらも、協力して料理をしたり、食事をしながら、交流を深めることができましたと思います。

日本の参加者からは「中国の参加者が流暢に英語を話していて、レベルの高さを感じた。国際交流の意識が高まった」「英語、中国語をもっと勉強したい」という声が聞かれました。若者が海外へ出て行くことをためらうようになったと言われる昨今において、こうした経験が国際感覚豊かな人材の育成につながればと期待しています。



料理を通しての交流

5 おわりに

震災の影響により紆余曲折がありました。関係者の皆様のご協力により、総勢150名余りの参加による大規模な交流事業が実施できたことに感謝を申し上げます。国際交流の推進はもちろんのこと、震災後の風評被害が残る本県にとって、中国と韓国の方々に直に茨城を感じていただき、「茨城が安全だということ、茨城の食品が安全でおいしいということ」を本国で伝えていきたい」との言葉をいただけたことは、大変ありがたいことでした。

来年は中国での開催が予定されていますが、交流推進のためには、継続した活動が大事だと思っています。こうしたイベントを通して国際交流が少しでも拡大していくことを願っています。